

とみおかまち



福島県
富岡町

支援員だより

vol.25

【発行日】
2025年3月6日

発行 富岡町県外避難者支援拠点事務所 〒330-0061 埼玉県さいたま市浦和区常盤6-4-21 一般社団法人 埼玉県労働者福祉協議会 内

お困り事など、どうぞお気軽に！
ご連絡待っているっぴ



TEL 048-832-0600

FAX 048-833-8746

MAIL tomioka_saitama@eos.ocn.ne.jp

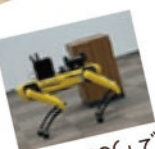
富岡 秋まつり バスツアー

11月9日(土)

今年は初めて宮城県からもバスを運行し、富岡秋まつりへ向かいました。仙台発のバスは日帰り、東京発は一泊二日での参加です。お祭り当日は天気にも恵まれ、参加者は久しぶりの再会を楽しみながら富岡秋まつりを満喫していました。今年から「えびす講市」が「富岡秋まつり」の一部となり、会場が町役場周辺に集約され、同日開催の病院祭(福島県ふたば医療センター附属病院)やCLADS(廃炉環境国際共同研究センター)見学も可能になりました。



露店が盛況だった「富岡えびす講市」



「CLADS」での
4足歩行ロボット



「病院祭」でのドクターヘリ見学

えびす講市の露店では林業組合の木工品手作り体験などが盛況で、病院祭ではドクターヘリの見学や解説のほかAEDの使い方教室、認知症の検査なども行われていました。CLADSではロボットアームの操作や廃炉に向けた技術の説明を聞き、4足歩行のロボットの操作と説明なども聞くことができました。学びの森では、作品展や芸能発表などが行われ野外ステージでも大道芸などで賑わっていました。同時に複数のイベントが開催されていたため、どのイベントに参加するか悩むほどの充実ぶりでした。参加者からは「楽しかった」と感想をいただき、富岡町の魅力を再確認する機会となりました。



久しぶりの再会を
楽しんだ参加者

1月17日(金)、仙台駅前の「はや瀬」でみやぎ・富岡さくら会の新年会が開催されました。8世帯12名が集参加し、新年を祝いました。今回の集まりは富岡秋まつり以来となり、参加者同士で年末年始の出来事を語り合いました。また、来年度の桜まつりについても話題に上がり、皆さん楽しみにしている様子でした。一方、会長からは高齢化が進む会員の今後について心配する声も聞かれました。

みやぎ・富岡さくら会 新年会





縁	joy		
交	流	会	2024

10/3～5の3日間、千葉市きぼーるのアトリウムにて「縁joy交流会2024」が開催されました。震災当時から復旧・復興期にわたる被災地のパネル展示を行い、改めて復興の状況を振り返る機会となりました。最終日である10/5には普天間かおりさんのコンサートがあり、富岡町の復興応援ソング「桜舞う町で」が披露されました。この曲は、郡山市の仮設住宅に避難されていた富岡町民とともに作られたもので、大きな感動を呼びました。来場者は昨年を上回る延べ150名となり、被災地への関心の高さを実感しました。



頑張る富岡町民に
エール

佐藤 義親さん
(宮城県名取市在住)

盆栽アドバイザー

宮城県名取市の佐藤義親さんは、地域で盆栽を教えるアドバイザーとして活躍されています。ご自宅の庭には多くの盆栽が飾られ、庭の木々や花が見事に調和しています。受賞歴のある盆栽も飾られており遠方から訪れる方もいるほどです。また、庭には滝のある池があり、メダカを飼育。さらに、野鳥のための餌場を設置し、近所の方を招いて観察会を開くなど、地域の交流にも貢献されています。

盆栽と調和している庭の木々や花



庭には滝のある池があります 受賞歴のある盆栽も飾られています

編集後記



時間が経過するのは早いもので、2011年から14年目が経過しました。昨年は、福島第一原子力発電所2号機からデブリが取り出されました。しかし、880トン中の0.7グラムです。廃炉へ道のりはまだ遠いのが現状です。富岡町には帰還・移住された方がいる一方で、引き続き多くの方が日本全国で避難生活を続けています。町の変化に戸惑う方もいるかもしれませんが、富岡町のさらなる発展と住みよい環境づくりが求められる時期です。住民が安心して生活できる町になることを願っています。